

事業報告

1 事業概要

新型コロナウイルス感染症拡大により事業の中止・延期など大きな影響を受ける中、宇都宮市からの要請を踏まえた対応や業種ごとに策定された「感染拡大予防ガイドライン」に沿った対策の実践など、関係機関等と連携し、感染拡大防止に財団全体で取り組みました。

事業につきましては、事業計画に基づき、文化芸術に係る公演や成果発表、企画展、コレクション展の開催のほか、文化芸術活動の場の提供及び多様な文化芸術に触れる機会、鑑賞の場の提供など、開催可能な事業を実施しました。

また、施設の管理運営につきましては、宇都宮市文化会館、宇都宮美術館及びうつのみや文化の森の指定管理者として、施設の「管理に関する基本協定書」に基づき適切に管理するとともに、サーマルカメラ、非接触温度計の導入や施設内清掃及び消毒の徹底など、利用者・職員等の安全・安心に十分配慮のうえ対応しました。

(1) 宇都宮市文化会館

文化芸術振興事業につきましては、文化芸術活動の育成・支援、地域文化の創造、舞台芸術鑑賞を主要事業として位置づけ、自主財源である文化振興基金を活用した自主事業 59 事業と、宇都宮市から委託を受けて実施した受託事業 23 事業の合計 82 事業を計画しましたが、新型コロナウイルス感染症拡大により 62 事業が中止となりました。

開催可能となった事業についても、事前に感染拡大防止を目的としたシミュレーションを実施するなど、感染防止対策を十分に講じて対応しました。

また、稼働率の低下したホールを有効に活用するため、「あなたにエール！グランドピアノ開放 DAY」を新たに企画・開催し、市民に好評をいただきました。

ア 文化芸術活動の育成・支援事業

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、予定していた事業のほとんどが中止になりましたが、実施した 8 事業の中で、鑑賞の場、体験の場となる受け皿としての役割を併せ持つ事業を展開することにより、文化芸術の普及啓発を図りました。

- ・ 「文化会館・美術館連携事業 LIVE PAINTING「海を混ぜる」」では、美術館の「ミロコマチコ」展と連携し、ピアノの即興演奏と合わせて作品制作過程を披露するイベントを開催しました。共催機関による YouTube でのライブ配信も行われ、事業を広く発信することで地域の文化振興に寄与しました。
- ・ 「宇都宮ユース邦楽合奏団演奏会&チャレンジワークショップ」は、邦楽の普及啓発及び邦楽若手演奏家の育成・支援を目的として実施しており、成果を披露することで市民にも良質な邦楽公演の鑑賞機会を提供できました。

- ・ 伝統音楽及び古典芸能等の普及啓発を図る目的で開催している芸術文化講師派遣事業「ふれあい文化教室」は、市内の小中学生を対象に通年で実施し、参加者は延べ8,419人となりました。
- ・ 県内高校のダンス普及及び技術の向上を図る目的で「第12回栃木県高等学校体育連盟ダンス新人大会」を実施し、県内26校が参加しました。

イ 地域文化の創造事業

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、当初予定していた事業は全て中止となりましたが、市民の方々にホールを有効に利用いただくため、新たに「あなたにエール！グランドピアノ開放DAY」を企画しました。

- ・ 当事業を通して、コロナ禍で文化芸術に触れる機会が減ってしまった市民の方々に大ホールのグランドピアノを無料で開放し、ステージでの演奏機会を市民に提供することで、施設の有効活用と地域文化の振興に寄与することができました。

ウ 舞台芸術鑑賞事業

新型コロナウイルス感染拡大により、36の事業が中止となりました。9月以降開催した11事業については、事前に感染拡大防止を目的としたシミュレーションを行うなど、対策を十分に講じたうえで実施しました。

- ・ 「東京フィルハーモニー交響楽団」によるオール・ブラームス・プログラムのシリーズ最終回を11月に実施しました。席数を1/3以下に減らして販売するなど、安心して鑑賞いただける環境を整え、良質な舞台芸術を鑑賞する機会を提供しました。
- ・ 11月には児童劇「しまじろう」公演を実施し、市民に家族で楽しめる公演の鑑賞機会を提供しました。
- ・ 9月に「葉加瀬太郎コンサート」、12月に「高嶋ちさ子コンサート」を開催し、市民に良質な舞台芸術を鑑賞する機会を提供しました。

令和2年度の総入場者数は、自主事業8,047人、受託事業9,512人、合計17,559人となりました。

(2) 宇都宮美術館

文化芸術振興事業につきましては、展示事業、美術作品の収集・保管・貸出事業、教育普及事業、地域・学校との連携事業を主要事業として位置づけ、各事業を実施しました。

なお、全国の緊急事態宣言を受け、4月26日から5月10日まで臨時休館となりましたが、その後は、感染防止対策を講じながら、ほぼ計画どおり実施することができました。

ア 展示事業

(ア) コレクション展

1年間で2回の会期に分け、宇都宮美術館が所蔵する作品から、会期ごとにテーマを設定し、その内容に沿った作品を展示しました。観覧者は34,895人となりました。

(イ) 企画展

企画展は年間5事業を実施し、「北澤美術館所蔵 ルネ・ラリック展」は臨時休館により開幕が約2週間遅れましたが、観覧者数は36日間で6,359人、「メスキータ展」は49日間で7,493人、「ミロコマチコ いきものたちはわたしのかがみ展」は66日間で12,852人、「第13回宇都宮エスペール賞 伊藤遠平展」は45日間で7,037人、「ジョルジュ・ビゴー展」は45日間で6,861人となりました。

3密を防ぐ余裕をもった展示とするため、同時開催の企画展の会期を一部変更するなど、安全・安心な鑑賞環境の提供にも努め、年間の企画展観覧者合計は、目標の43,000人に対して40,602人と、コロナ禍の中、多くの方々に鑑賞いただきました。

イ 美術作品の収集・保管・貸出事業

当館の収集方針に基づき、美術作品の収集調査活動を行ないました。令和2年度は野見山暁治作品「帰ってきた日」のほか、佐伯留守夫、勝井三雄の作品など74点を新たに収蔵し、収集作品の合計は6,829点となりました。

なお、令和2年度は、新型コロナウイルスの影響等もあり、作品貸し出しはありませんでした。

ウ 教育普及事業

企画展関連事業として、展示内容にあわせた講演会、アーティスト・トーク、ワークショップなどを開催するほか、制作や野外観察などの実体験を通して文化の森の魅力を感じていただく「自然観察会」、地元の音楽家を紹介する「森のコンサート」など幅広い事業を開催しました。新型コロナウイルスの感染防止対策として、募集人数についても当初予定より縮小して実施し、教育普及事業の合計参加者は1,973人となりました。

エ 地域・学校との連携事業

地域連携事業として、友の会、地元自治会、近隣の教育機関、地元企業などと連携し毎年子どもの日に開催している「子どもフェスタ in 文化の森2020」は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となりました。

また、「トビダス美術館」は、新型コロナウイルス感染状況を見ながら9月より募集を開始し、実施校を3校に縮小して実施するほか、学芸員が大学と連携し講師を務める「アートトーク」など、出前事業の合計参加者は142人となりました。

(3) 施設貸与及び施設管理

文化会館の施設貸与事業につきましては、施設受付予約システムを活用することで、利用者の利便性向上と利用促進に努めるとともに、施設の空き情報の提供等についても、ホームページ等を活用して細やかに対応しました。

また、新型コロナウイルス感染拡大防止のために、啓発ポスターの掲示、消毒液の設置及び1階トイレ手洗いの自動水洗化などを実施し、市民の方々が安心・安全に利用いただける環境を整備しました。

大・小ホールをはじめとする各施設の年間延べ利用日数は1,581日で、総利用者数は74,447人、前年度比381,902人の減となり、施設利用料金は34,410,140円、前年度比75,889,048円の減となりました。減少した主な要因は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、利用者数が大幅に減少したことによるものです。

宇都宮美術館の施設貸与事業につきましては、講義室の利用が3件（前年度19件）ありましたが、全て100%減免の対象であったため、施設利用料金収入はありませんでした。

次に、施設の管理運営にあたりましては、宇都宮市文化会館と宇都宮美術館及びうつのみや文化の森の指定管理者として、両施設の「管理に関する基本協定書」に基づき、快適で安全・安心な環境の維持と提供に努めるとともに、危機管理体制の強化を図りました。

また、施設利用者の利便性とサービス向上・促進を図るため、施設内自動販売機の運用や文化会館プレイガイドにおいて、各種チケットの委託販売、美術館ミュージアムショップの運営を行いました。